

「575」

(男1／女8)

一幕七場

上演時間 60分

あらすじ

名門上野澤高校文芸部は今年で創立百年を迎える。しかし、現在部員は三名。風前の灯火状態である。五十年前、創立五十周年を迎えたときも、実は大きな問題を抱えていた。文芸誌『七葉』創刊号、つまり五十年前の先輩から宿題が出されていたのだ。それは「はやしゆったつは告げられている」という下の句に、上の句つけるというもの。その宿題に立ち向かった彼らは五十年後の後輩に同じように宿題を出す。それは「風に乱れる髪を見ている」という下の句に上の句をつけるというもの。五十年という時空を越えて響き合う高校生の心。同じように悩み、苦しむ高校生たち。はたして現代の廃部目前の文芸部員たちはこの宿題をやり遂げることができるのか？

上演記録

平成二十八(2016)年度 関東大会(東京会場) 出場作品

平成二十八(2016)年度 山梨県高校演劇大会 優秀第一席(県第二位)

舞台美術賞・創作脚本賞受賞

連絡先

t040125@yahoo.co.jp

はやおとつじ(砂澤雄一)



登場人物

1966年組

薫子 (二年) 副部長……………
順子 (二年) ……………
恵美子 (二年) ……………
美智子 (二年) ……………
照子 (二年) ……………

部長 (三年) 部長……………

2016年組

桜子 (二年) 副部長……………
夏帆 (二年) ……………
佳奈 (二年) ……………
部長 (三年) 部長……………

0

暗い書庫。差し込む光を受け、部長がたたずんでいる。
下手から薫子
校歌が静かに聞こえる

薫子 また、逃げるんですか

部長 振り向かない

薫子 部長！

部長 何も言わずに出口に向かう
ドアを開けるとまばゆい光が差し込み部長の姿が消えかかる
部長 奥を向いたまま

部長 虹消えて忽ち君の無き如し 注1

部長 薫子をふり返り

部長 虹消えて忽ち君の無き如し

薫子 部長、そんな姿を見てお姉ちゃんが喜ぶと思うの

部長は何も言わず行こうとする

薫子 ニシニ キエテステニ ニナケレトニ アルコニ トシ 注2

ニシニ キエテステニ ニナケレトニ アルコニ トシ!

戻ってきて下さい。私たちには部長が必要です。

五十年前、先輩たちが残してくれた宿題に、私はどう答えればいいのか

部長、ゆっくり振り返る

部長 大丈夫だ、薫子。何の心配も無い。できるよ、お前なら

暗転

1 (1966年)

書庫に順子、恵美子、美智子、照子

美智子 見ましたか、見ましたか、見ましたか

照子 みつちゃん、うるさい

美智子 ね、先輩、見ましたか、ね、見ましたか?

シュワツチ!

恵美子 またウルトラマン?

美智子 3分しか持たないんですよ。地球上では。その設定がいいんです。胸の所の、あれカラータイマーって言うらしいんですが、それがピコン・ピコンって鳴るんですよ。で、だんだん早くなるの。そして、そこでナレーションが渋い声で入るんですよ。その声もまたいいんです! テルちゃん、すごいよ、はらはらしちゃって。ピコンピコンピコンピコンピコンピコン

順子 ピコンピコン、うるさいわよ、美智子さん

美智子 シェー

順子 シェーはやめなさいっていつも言ってるでしょ!

私たちは高校生なのよ。マンガを 読んでいいのは小学生まで。何がシエーよ

美智子 順子先輩、あのジョンレノンだってシエーをしたんですよ。今やシエーは世界共通語です

恵美子 なわけないでしょ(笑)

順子 とにかくやめて。シエーとかダヨーンとかウルトラマンとか

美智子 ダヨーンは言ってみせ

順子 うるさい!おんなじよ。私たちは名門・上野澤高校の文芸部員なのよ。創立50年を数える栄えある文芸部の:

美智子 わかりましたわかりました。もう順子先輩、いつも最後は栄えある文芸部なんだから。

これからはマンガや特撮映画を文芸部で語る時代が来るかも知れませんが

順子 来ないわよ!

恵美子 いやいやそうとは言えないかもしれないわよ

順子 なによ恵美子まで、みつちゃんが調子に乗るからやめてよ

美智子 ほうら、秀才の恵美子先輩だってそう言ってくれたじゃないですか

順子 バカね、文芸部がマンガや特撮を語るようになったら日本はおわりよ

美智子 わかりませんよ。五十年くらいたったら

順子 五十年後もウルトラマンやってたら逆立ちして校庭十周してやるわよ

美智子 ホントです、ホントです、私、ずっと覚えてますよ

照子 やめなさいよ

順子 五十年後は、二〇一六年よ。気が遠くなりそう。

美智子 二〇一六年? 空想科学小説の世界ですね。

恵美子 私たちは六十七才か:

順子 うわ、もうおばあちゃんね

照子 孫がいますね、きつと

575

美智子 ひ孫かもよ

恵美子 私、生きてるかな

一同 静まる

恵美子 ま、私はいずれ独り身だろうな

照子 え、先輩結婚しないんですか

恵美子 照ちゃんは、きっとかわいいお嫁さんになるわね（ニッコリ）

照子 え、そんな

美智子 何照れてるのよ！

恵美子 みつちゃんは優しいお母さんになるわ（ニッコリ）

美智子 え、そんな

照子 何照れてるのよ！

そこへ薫子が入ってくる

薫子 今週の原稿、全部上がってるの

順子 あ、それなら

薫子 今週はガリ切るの照ちゃん？

照子 はい

薫子 照ちゃん、字がきれいだから、助かるわ

照子 （照れる）は、はい

美智子 いいな…

薫子 みつちゃんのダイナミックな字も私好きよ

美智子 は、はい！

褒められた二人は嬉しそうにつつきあう

順子 五十周年号、めど立ちそう？

薫子 …

恵美子 (ちよつと突き放した感じ) 薫子がいるんだから、なんとかなるでしょ

薫子 そんな力、私にはないわ

順子 でも部長がいなのは確かに心細いわね。

恵美子 …薫子さんの一周忌にも帰って来なかった人はあてにはできないか…

薫子 ………

順子 ちよつと恵美子

恵美子 ……わかってるわよ

恵美子 去っていく

順子 え、どこ行くの恵美子

恵美子 なんでも背負いこむのが好きな人がいる部じゃ無理かもね

順子 待ちなさいよ

恵美子を追いかけて出て行く順子、心配そうに薫子を見ていた美智子と照子も後を追う。薫子が一人取り残される。暗転

2 (2016年)

書庫に桜子と夏帆が入ってくる

佳奈は既にいて机で本を読んでいる

桜子 霜柱青春の骰子七も出でよ 注3

夏帆 なに、それ？

桜子 うん？ 私の最近のお気に入り

夏帆 ね、「サイ」って何？

桜子 サイコロのこと

夏帆

へー おおや
あつ、大谷さん早いね！

本を読んでいた一年・佳奈が怯えたように机ごと後ずさりする

夏帆

ははは、おもしろーい

桜子

やめなさいよ。大谷さんは、貴重な新入部員なんだから

夏帆

だっておもしろいんだもん

お菓子を広げる夏帆

佳奈に興味津々で様子をうかがっている

そして突然佳奈に走り寄る

夏帆

なに読んでるの！

佳奈 今度は机から離れてさらに大きく後ずさり

片隅で本で顔を隠して震えている

桜子

ちよつと！ やめなさい

夏帆

えくだってさ、いつも本ばっか読んでるから気になるよ

桜子

だめ、大谷さんにやさしくして！もし彼女が退部したら文芸部は終わりなんだから。部長はいつ帰ってくるかわからないし、私の代で文芸部をつぶせないの！

(急に優しい声色で) ごめんねー大谷さん

佳奈の震えは止まらない、場所を変えてまた読書に没頭する

夏帆

あ、そういえば、新入部員どうなったの？チラシ配れた？

桜子

：一人も話聞いてくれなかった。

夏帆

だよね

桜子

サッカー部やバスケット部の前はマネージャー志望の女子でいっぱい

夏帆

人気あるもんね

桜子

文化部だって、吹奏楽とか合唱部はまあ仕方ないとして

575

夏帆 うんうん

桜子 アニメ同好会とか、イラスト部とか、結構人気あつて

夏帆 そっち行くよね

桜子 あんなに女子はたくさんいるのにどうして文芸部には一人しか来てくれないの

夏帆 いいじゃん、三人で。

桜子 (語気強く) 良くない!

夏帆 なぜ?

桜子 それは… たくさんいた方がいいでしょ、にぎやかで

夏帆 あれ?

桜子 何よ

夏帆 なんか隠してるな…、夏帆、わかるんだからね

桜子 …何を隠しているっていうのよ

夏帆 えーとね、さっきから女子女子っていつてるけど、ホントは男子に入ってきてほしいとか
いと

桜子 えっ!

夏帆 凶星ね、「真実はいつも一つ!」

桜子 そんなんじゃないよ。そりゃ、男子部員も入ってほしいけど

夏帆 やっぱり…

桜子 そうじゃなくて、人手がいるの

夏帆 ヒトデ? 海の?

桜子 あのね、じゃあいうけど、今年、文芸部は創部百年なの。で、記念号を出さなきゃならないのよ、部長はいないから私たち三人で

575

夏帆 それで？

桜子 それでって…。大変でしょ、百年の区切りだから。今までの歴史とか、先輩達の原稿集めたりとか、いつもより立派なのを作らなきゃならないわけ。私たちの作品も去年みたいないい加減のじゃダメだと思うから…

夏帆、突然帰り支度を始める

桜子 え、どうしたの

夏帆 やめる。夏帆、文芸部やめるから。

桜子 えー！なによ急に

夏帆 だってそんなメンドいことやってられない

桜子 そんな

夏帆 あたしが文芸部に入ったのは桜子ちゃんとの友情の証っていうか、そういうものであつて

桜子 えーっ

夏帆 もともと「文学」とかにゼンゼン興味ないし、わかんないし、好きじゃないから

桜子 ちょっと待ってよ

夏帆 私の守備範囲は、マンガ・アニメ・戦隊もの

桜子 オ・タ・ク？

出口に急ぐ夏帆が急に止まる

夏帆 あとウルトラマンなら平成三部作までね

桜子 知らないわよ、そんなの！…ねー夏帆、お願いー

夏帆 大丈夫、大丈夫、今時珍しい文学少女の大谷さんが入ったんだから、やれるって。じゃーねー

夏帆、そそくさと出て行くとする

575

がたつと音をたてて、佳奈が席をたつ

桜子 わ、ど、どうしたの？大谷さん

夏帆 ？

桜子 まさか、あなたまで辞めるなんていわないわよね

間

佳奈 …マ…

桜子・佳奈 ？

佳奈 …マンガ…

桜子 え？！

佳奈 …わ、私の、よ、読んでいる本、マ、マンガ…

桜子 えーっ！

夏帆 大谷さんがマンガ好きだったなんて！ねえっ！どんなの読んてるの？

佳奈 せ、青春ラブコメ、き、禁断の恋、え、SM、ファンタジー…そ、それとBL
も少々

夏帆 すっごーoooooooooい。

桜子、落胆して

桜子 お、大谷さんってそっちの人だったのね

夏帆 なんだー、じゃー仲間だね、よかつたあ
あ、よくないか、桜子ちゃん、ピーンチ！

桜子 どうしたらいいの、もう、泣きそう

夏帆 あれー？ 大谷さん下の名前は

佳奈 …佳奈です

575

夏帆 オオヤカナ?…

夏帆が佳奈をじつと見る

桜子 どうしたの?大谷さんの名前、なにかあるの

夏帆 もしかして…

桜子 ?

夏帆 春の文フリで

桜子 文フリ?

夏帆 文学フリマ。そこで「おそ松くん」と「おそ松さん」の比較マンガ論を出品して開始三十分でソルドアウトしたという伝説の美少女評論家 オオヤカナとは

夏帆、びしっと佳奈を指さし

夏帆 あなたのことだったのね

佳奈 …わ、私も、し、知ってますよ、み、岬先輩

夏帆 まさか!

一人、この場の雰囲気について行けない桜子が

桜子 これ、どういう展開なの?

佳奈 「シン・ゴジラは使途だった」エヴァで読み解く「ゴジラ論」で日本アニメ学会新人賞を最年少で受賞した、で、伝説の美少女アニメ研究者、み、ミサキカホとは…

佳奈、夏帆をふにやっとなら指さし

佳奈 せ、先輩のことだったんですね

桜子 なに、なんなの、この雰囲気…。なぜ二人とも……「美少女」なの

夏帆・佳奈 そこかい!

夏帆 桜子ちゃん、結構捨てたもんじゃないかも。大谷さん、超大物新入生だよ

桜子 ？

夏帆 ははは、なんか面白くなってきた

桜子 はあ？

夏帆 そっか、文芸部って言っても、マンガやアニメ、特撮とかを論じてもいいかも

桜子 えーっ、ちよつとちよつとちよつと

夏帆 なら、やってもいい。部員も増やしたい

佳奈 …あ、あの

夏帆 なに佳奈ちゃん

佳奈 わ、わたしも、と、友達ふやしたいです…

夏帆 そうだよね。よし！頑張ろう。あ、そうだ、こういうのどうかな？

桜子 なに？

夏帆 この教室のミステリーを作るの！

桜子 は？

佳奈 そ、それ、い、いいですね！う、噂を、な、流す

夏帆 そう、さすが佳奈ちゃん、飲み込み早い

桜子 えーっ、よくないからね？

夏帆 文芸部なくしたくないんですよ？

桜子 それは、そうだけどさ…

佳奈 は、話を聞くだけでも！お、お願いします！や、山野先輩

桜子 …じゃあ話だけ

夏帆 やった

佳奈 で、では、さ、さっそく

間

佳奈 し、知ってますか？こ、この教室には…よ、妖精がいるって…
あ、ある夜のこと、夜勤の警備員さんが校内を見回りしていました

夏帆 かなり入れ込み、凝った人物造形している

夏帆 あく今日も夜勤か…さっさと終わらせよう。それにしてもさみいな

佳奈 そ、そういつて、け、警備員さんは、こ、この教室にきました

夏帆 あとはここだけか

佳奈 き、教室を覗いた、そ、そのとき

金色のまばゆい光が満ちてくる。

妖精の笑い声

夏帆 う、うああああああああああ、こつち来るな…

佳奈 け、警備員が見たもの、そ、それは小人のような、ひ、光を放ったものでした。
そ、それからというもの、こ、この教室には、だ、誰も寄り付かなくなった…

夏帆 ちょっとホラーテイストだけどいいね

桜子 …

夏帆 桜子ちゃん？なに、怖かったの？

桜子 そそそそんなわけなからう！！

佳奈 や、山野先輩、お、臆病ですね

桜子 そういうこと言うな！あーもうこの話は終わり！おしまい！ちゃんちゃん

夏帆 えー妖精さんー

佳奈 い、いいですよ！？よ、妖精さん

桜子 良くも悪くも、そんな噂が広がるわけがないよ

575

夏帆 頑張ればいける

桜子 どうやって

夏帆 実際にその事件を起こせばいいんだよ

桜子 はい？ついに頭いかれた？

夏帆 だから、今言ったことを現実にして、みんなに広げてもらおうよ

佳奈 い、いいですね、わ、私その話、の、のりました

夏帆 おっ！さすが佳奈ちゃん

桜子 そんなことできるわけじゃない。

夏帆 そんなのやってみなければわかんないじゃない、やらないで後悔するより、やって後悔しようよ！

桜子 後悔すること確定なのね

佳奈 こ、後悔は し、しないでするより やってせよ

桜子 まんまだし …どうやって夜中に学校にいるつもりなのよ

夏帆 えーっとそれは…

佳奈に合図を送り喋らす

佳奈 こ、このまま、こ、ここに泊まるっていうのは、ど、どうですか

夏帆 そうそう、お泊り会だよ桜子ちゃん

桜子 だめでしょ

夏帆 だめですか？

桜子 だめだって

佳奈 …

575

桜子 申請もなしにここに泊まれるわけないじゃないの

佳奈 し、静かにしてれば、だ、大丈夫ですよ

桜子 いや…えええ？

夏帆 桜子ちゃんやろ？ね？泊まろう？

佳奈 や、山野しえんばい…

桜子 だめなものはだめです

夏帆 桜子ちゃんケチー

佳奈 や、やまの桜子 け、けちで有名 ふ、副部长

桜子 …本当のこと言ってるだけ

夏帆 佳奈ちゃんうまい！！よし、じゃあ、一旦家に帰って支度して、ふたひとまるまるここに集合！

佳奈 りよ！

桜子 なんでよ。まさか本気でここに泊まろうなんて思って…

夏帆・佳奈 いる

桜子 …思っ

夏帆・佳奈 います

桜子 おも

夏帆・佳奈 ている

間

夏帆 さあ佳奈ちゃん。

佳奈 りよ！

桜子 え。

575

夏帆 桜子ちゃん、いいのね

桜子 いいもなにも私は反対だって

佳奈 え、せ、先輩変態なんですか

桜子 反対だからね。なんでそう聞こえちゃったのかな

夏帆 では、仕方があるまい。佳奈ちゃんと夏帆で【妖精事件でっちあげよう作戦】を実行する

佳奈 了解

夏帆 佳奈ちゃんそこはほら！

佳奈 りよ！

桜子 その「りよ」ってなによ

二人とも帰る準備

夏帆 じゃあね、桜子ちゃんまた月曜日

佳奈 や、山野先輩、お、お疲れ様でした

桜子 えつ、あつ本気？

去っていく二人

桜子 …「りよ」ってなによ

暗転

3 (1966年Ⅱ)

書庫に恵美子、順子、美智子、照子

美智子 本当ですか？恵美子先輩

575

順子 エミちゃん、みっちゃんがるさいからそういう話はしないでくれる

美智子 順子先輩、イジワル

照子 この書庫に幽霊が出るっていう噂ですよ

美智子 あーーーーーっ、もう鳥肌立つーーーーっ

順子 うるさいわよ

美智子 怖い話、怖いんだけど聞きたくなるーーーーー

恵美子 幽霊っていうのはちよつと違うわね

照子 でも、昔、すごい秀才の人で、小説家目指してた人が、「人生これ不可解なり」って遺言残して太宰治のお墓の前で死んだって

恵美子 いろんな話がミックスされてるわね……そんなじゃないわ

美智子 あ、あと文芸部の部長をしていたとってもきれいな女の人の霊が

順子 ばか！やめなさいよ。文芸部員なら二度と口にしないで

美智子 え？

恵美子 ま、とにかく幽霊じゃないわ

照子 妖怪ですか

美智子 墓場の鬼太郎か、楳図かずおか

順子 あんたマンガしか読んでないんじゃないの。勉強してるの

美智子 出たな口裂け女

順子、美智子の頭をコツンとする

順子 おばか

照子 いったい何なんですか？

恵美子 妖精よ

照子・美智子 ヨウセイ

美智子 かつこいい、しびれるー

順子 ずっとしびれてなさいよ

そこへ薫子

薫子 何の話？ ずいぶん賑やかね

順子 この部屋にいる本の妖精の話よ

薫子 まあ

恵美子 この書庫は開校当時、つまり五十年前からあったのよ

美智子 確か大正五年とか

順子 そうよ、第1次世界大戦が起こってた頃ね

美智子 歴史は苦手ー

順子 常識よ

薫子 漱石が「明暗」を書いて、なくなった年だわ

恵美子 (やや対抗心を持って) 鷗外が「高瀬舟」を書いた年でもあるわ

照子 先輩達って頭よさそー

美智子 よさそーじゃなくて「いい」のよ

学年トップの恵美子先輩、生徒会長の薫子先輩
えーと順子先輩はなんでしたっけ

順子 みつちゃん、いい加減にしなさいよ

美智子 順子先輩は、私たちのお母さんね

順子 あなたみたいな娘いません

恵美子 その年から、ここで文芸部は活動してたみたい

薫子 私たちの文芸誌「七葉」の創刊号は一九一六年刊行よ

恵美子 その第一号がこれ。

恵美子、第一号を取り出す

美智子 おー、歴史感じる

順子 歴史苦手なんでしょ

照子 五十年前って私の父が生まれた年です。そんな昔なんだ

恵美子 その第一号に「文芸部奇譚 書庫の妖精」っていう文章があつてね

美智子 読んで下さいよ、読んで下さいよ

恵美子 (ぞんざいな感じ) 朗読は薫子にかなわないから彼女に頼むわ

薫子 (少し困った感じで) 自分で読めばいいのに

さて同氏諸兄、我が文芸部の主戦場とも言うべき、かの書庫で毎夜起こるファンタジーを紹介せん。我が親友の y 君、書きかけの大傑作をものせんと深夜、本校にしのびこみたり。

美智子 泥棒か

照子 うるさい

妖精の笑い声

薫子 ドアの前まで進みてなにやら中で話をする声を聞きつけたり。その声は、ささやくようでもあり、また洞窟に響くこだまのようでもあるという。y 君が意を決してドアを勢いよくあけたところ、声はせず、灯りもなくいつもの書庫のままであった。

美智子 なーんだ

恵美子 続きがあるのよ

薫子 怪しく思って再びドアを閉め、しばしの間、静かに佇んでいたところ、またしてもくだんのざわめき聞こえたり。

妖精の笑い声

美智子 「くだん」ってなに

順子 辞書引け

恵美子 みつちゃん、ここからよ

美智子 はい

まばゆい光が満ちてくる

薫子 音も立てずにそつとドアを押し開けたれば、書庫のなかまばゆく輝きたり。黄金こがねの粉をまき散らしたかのごときまばゆさの中を一尺ほどの輝く人、宙に舞たるを目撃せり。

美智子 エーーーーー

順子 うるさい

美智子 だって金色の、小さい、空を、

照子 落ち着きなさいよ

美智子 ここに、ここに、それが出るんでしょー

薫子 みつちゃん、もう少しあるのよ

美智子 もうしわけございませんでした

薫子 y君、恐怖も忘れ一時その様子に見とれたが、小さな物音を立てたる時、その輝く者達はみな書籍に吸い込まれたるようにして姿消しにけり。y君おもえらく、彼らはみな本の妖精ならん。さすれば、この書庫は本の妖精のすまう希有なる書庫なり。これ我が校の、我が文芸部の誇りなり。我らは本の妖精に守られたる幸福なる文学士なり。後輩諸氏に告げん。上中文芸部よ、胸を張れ。我らは本の精に守護されたり。

五十年前の先輩が、「胸を張れ」って励ましてくれてるわ。

恵美子 我らは本の精に守護されたり・・・か

美智子、創刊号の裏表紙をしげしげと見て

美智子 先輩、これ・・・なんですかね

順子 なに？

美智子 裏表紙に下の句だけ載ってるんですよ。

照子 なんて書いてあるの

美智子 「はやしゅったつは告げられている」

順子 どういうこと？恵美子

恵美子　すでに旅立つことは告げられている・・・ってことかしら

美智子　どういうことですか

薫子　私たちに上の句をつけなさいという意味よ

照子　私たちに、ですか

美智子　五十年間もあつたんだから、もう誰かつけてるんじゃないんですか

薫子　美智子から創刊号を取って最後の頁を開いて恵美子に渡す

恵美子　編集後記　されば、この上中文芸誌「七葉」の前途を祝し、五十年後の後輩たちに宿題を出さん。五十年後の世界はいかならん。日本は世界にいかなる地位をしめたるや。工学技術は一般大衆にいかなる恩恵を施すや。されど、我思う。人の心の機微は五十年という短き時間では大きくは変化はすまい。文芸を志し、人のありようを探る若人の思いは五十年後もいや百年後もいささかも変わるものではないと信ず。その証として、後輩よ、裏表紙の七七に五七五を付せ。君たちの全ての思いを五十年の時空を超えて、我等に示せ。

はやしゆつたつは告げられている　注4

美智子　宿題きらい

照子　小学生じゃないんだから

恵美子　うけてたとうじゃない、と言いたいところだけど

順子　なに？

恵美子　今年は、創刊五十周年号の編集をしなくちゃならないんだから、この宿題は避けて通ることはできないのよ、…でも

順子　でも？

恵美子　いえ、なんでもない

順子　言いたいことがあるならばつきり言ったらどうなの。あなたらしくもない

問

恵美子　…私は悔しいのよ、情けないの。薫子さんが亡くなって愛する人を失った部長は、書くべきものを見失い、失意のうちに姿を消した。それからは全部薫子が背負って…。薫子、私たちは一体なんなの

575

順子 恵美子：

薫子 …

恵美子 答えられないの？答えられないの。

薫子 …

恵美子 私、文芸部に入るために上高に来た。順子だってそうだと思う。

順子 …

恵美子 あの日のことを今でも昨日のことのように覚えてる。寒い日だったわ。例の俳句賞に薫子さんが選ばれて、私たちあなたの家にお祝いを言いに行った…

薫子 …

恵美子 薫子さん、あまり具合が良さそうじゃなかったけど、散歩に誘って下さって…。私たちは上高まで歩いた。薫子さん、こう仰ったのよ。「上高の文芸部にいらっしやい」って。そして、その場でこの句を詠んだんじゃないの

霜柱青春の骰子七も出さいでよ

あなた妹なんでしょ。薫子さんの血の繋がった妹なんでしょ。

薫子 …やめて

恵美子 あなたならあの時、この句の意味が痛いほどわかったはずよ。薫子さん、自分の病気が治らないことを知っていたんだわ。だからこの句を私たちの前で詠んだのよ。すごいことですよ。

順子 エミちゃん

恵美子 私は薫子さんになりたい。だから一生懸命文学をやってるの。勉強もする。なのにあなたがしていることなの？それが、あの人の妹のすることなの

薫子 ……ごめんなさい

恵美子 謝らないでよ…。私は謝って欲しくなんか無いの。ねえ、私たちは何？何なの。答えて

薫子 …友達だわ

恵美子 そうよ、私はあなたの友達だわ。そして、あなたも私の友達なのよ。わかってる？そんなに私たち、いえ、私は頼りにできないって言うの？

575

薫子 そんなことないわ

恵美子 だったら信じてよ。…信じて。信じてほしいのよ。

順子 恵美子…

そうよ。何もかも一人で背負い込まないで。私も恵美子もそして部長も、みんな薫子さんの透き通るような美しさに惹かれて文学を志したんだもの。みんな同じよ。みんな薫子さんの子どもみたいなものだわ。彼女が描きたかった世界を私たちが私たちの感性で描く、それが上高文芸部のレーゾンドートルだわ。

薫子 …ありがとう。でもね、上高文芸部の存在理由はお姉ちゃんの後を追うことではないと思うの

恵美子がキッと薫子を見る

薫子 恵美ちゃん。私は、あなたのように純粹に姉に憧れることはできないのよ…。

恵美子 …

薫子 でもね、きつとお姉ちゃんもこういうと思う。「みんなの信じる文学を目指しなさい」って…

間

薫子、恵美子に近寄り

薫子 …ありがとう。

間

恵美子 …ほんとにそう思っている？

薫子 思っているわ。

間

美智子 …先輩…「はやしゅったつは告げられている」ってどういうことですか

薫子 それはね、もう、逃げることはできないってことよ。ここにいる誰もが。そして、ここにいない部長でさえも

恵美子 薫子…

薫子 七葉は、卒業式に合わせて発刊される。きつと締め切りはあつと言う間にやってく

575

る。恵美子は小説。順子は詩。私は評論。みっちゃんとするちゃんは、短歌。そして部長は俳句。

美智子 あのだ：部長さんって：私たちが会ったことないんですが

薫子 そうね。でも、大丈夫。彼はきつと来る。私たちと一緒にこの重い宿題に挑戦してくれるわ。逃げている暇なんてないんだもの。だってもう「しゅったつは告げられている」んだから

順子 薫子、部長は本当にもどってくるかしら。薫子さんが亡くなって、一番衝撃を受けたのは部長なのよ。その心の痛手をたった一年で癒せるものかしら

恵美子 ……

薫子 いいえ、彼は帰ってくるわ。私、みんなを信じているわ。私たち全員で五十周年号を作り上げましょう

順子 薫子、気負いすぎじゃ…

美智子 大丈夫ですよ、先輩、私がんばります

照子 私もやります

美智子 上高文芸部よ、胸を張れ。我らは本の精に守護されたり

順子 うまいっ！

薫子 ありがとう

恵美子、薫子に歩み寄る。薫子が気づく

恵美子 ねえ、もう一度言って。私たちのこと信じてる？

薫子 信じてるわ。恵美ちゃん、私はずっとあなたのことを信じ続けてきたのよ

恵美子涙ぐみ下を向く。全員が恵美子に触れ励ます。顔を上げる恵美子。薫子が手を取る。

美智子 では、ここで一句

薫子 やるわね

照子 大丈夫なの？

美智子 まかせて。うおっほん……宿題は忘れたところにやってくる

4 (2016年Ⅱ)

布団が敷いてあり中央にランプ

夏帆と佳奈が人形をもち話している

佳奈 あ、あの、て、提案があるんですけど

夏帆 なに？

佳奈 と、友達ごっこ、し、しませんか？

夏帆 友達ごっこかあ、いいよ

佳奈 あ、ありがとうございます…で、では、さ、さっそく

人形劇

夏帆 今日もいい天気だね

佳奈 そ、そうだね

夏帆 …

佳奈 …

夏帆 で？

佳奈 え？

夏帆 ほ、他に、な、なんかないの？

佳奈 え、特に話すこともネタもないし。

夏帆 そ、そう、なんだ。あ、私はあるよ。今日授業中に前の席の大田くんがカッコよすぎてじんましんがすごかった

佳奈 お、大田くんってあの、は、ハーフの大田吾郎くん？

575

夏帆 そうそう。大田吾郎くん。名前は演歌とか好きそうな名前だけど目とか青いし色素薄いし

佳奈 しよ、少女マンガっぽい

夏帆 そうだね

佳奈 …

夏帆 で？

佳奈 え？

夏帆 ほ、他になにかないの？

佳奈 ないかなー

夏帆 へえ…

間

佳奈 …せ、先輩。…友達って難しいものですね

夏帆 そうかな、…そうでもないよ

間

佳奈 わ、私友達、い、いないんです

夏帆 …

佳奈 …な、なんで友達できないのか、わ、わからないんです。き、きっと自分の性格せいでとは、お、思うんですけど。な、直したくっても、ど、どこを直したらいいか、わ、わからないし。

夏帆 佳奈ちゃん

佳奈 お、教えてください。ど、どうやったら、と、友達ってできるんですか？

夏帆 佳奈ちゃん。夏帆と桜子、どう見える？

佳奈 な、仲がよさそうに、み、見えますけど

夏帆 そうか…

575

佳奈 え？

夏帆 友達に見える？

佳奈 と、友達に、み、見えますけど

夏帆 じゃあ夏帆と佳奈ちゃんは

佳奈 え？

夏帆 友達じゃないの

佳奈 み、岬先輩：

夏帆 友達つくる秘訣なんて知らないけど、きっと簡単なことなんだよ。えっとね、この人は友達だ！って信じればいいの

佳奈 そ、それだけ、ですか？

夏帆 うんそれだけ

佳奈 し、信じれば、い、いいんですか

夏帆 そう、だから信じて、夏帆や桜子のこと。

：私は信じることにしたんだ、桜子のこと。そしたら友達になってたよ、知らないうちに。佳奈ちゃんにもできるよ

佳奈 …は、はい

夏帆 信じてないでしょ（笑）…そのうちわかるって

物音

佳奈 い、いま、な、なんか聞こえましたよね？

夏帆 う、うん。聞こえた

佳奈 ま、まままさか幽霊……

夏帆 え？いやいやいや、ないよ！絶対ないって！

佳奈 で、でも、こ、ここには私達以外誰も

間

575

?? あんたたち…本当に

佳奈、夏帆顔を見合わせて

夏帆・佳奈 キャーーーーーッ

桜子 うわあっ、て、なに叫んでんのよ

夏帆・佳奈 桜子ちゃん！／山野先輩！

佳奈 ど、どうしてここに

桜子 え、いや、ただあんたたちだけじゃ心配で様子を見に…

夏帆 なあんだ、やっぱり来たかったんじゃない。

桜子 そういうわけでは！

佳奈 い、いいですよ、や、山野先輩。じ、自分に正直になりましょうよ

桜子 だから私は…

夏帆 いいよいいよ、桜子ちゃん。私達は大歓迎だよ！妖精事件でつち上げよう作戦へようこそ！

佳奈無言でニコニコしながら拍手

桜子 …わかったわよ

夏帆と佳奈、ハイタッチ

桜子 …部長から手紙が届いてた

夏帆 …え？

佳奈 ぶ、部長って誰ですか

桜子 大谷さん知らないか、今年になってまだ一度も学校来てないしね

夏帆 なんて？

桜子 まだ読んでない。ここに来て読もうと思ってるさ

夏帆 読もうよ、部長今どこにいるのか知りたい

575

夏帆と佳奈が注目するなか桜子が封を切る

桜子 僕は、今、しゅまりない朱鞠内 というところにいる。

夏帆 シュマリナイ？日本なの

桜子 北海道みたい

佳奈 ず、ずいぶん遠いところですね

桜子 僕はなくなった先輩と約束したことがある。それは「七葉」五十号の裏表紙に印刷された五十年前の先輩たちからの宿題に答えることだ。

佳奈 ？

夏帆 宿題？桜子ちゃん知ってる？

桜子、小さく頷く

間

桜子 …それは、「風に乱れる髪をみている」〔注5〕という下の句に上の句をつけるという宿題だ

佳奈 カゼニミダレルカミヲミテイル？

この上の句を作ればいいんですか？

桜子 桜子、夏帆、そしてまだ見ぬ一年生に伝えたい。今年「七葉」は創刊百周年を迎え、記念すべき百号を編む。…君たちにお願がある。「風に乱れる髪をみている」に君たちらしい、そして上高文芸部の今を託した上の句をつけるんだ。百号の目的は、それが一番だと思う。

夏帆 ただ、作ればいいだけじゃなかったってことね

ね、どうして言ってくれなかったの、昼間、そんな話しなかったじゃない

桜子 ごめん…あの時は、夏帆が急に辞めるって言ったから

夏帆 せっかくやる気出てきたのに…。いつもこんな感じ

夏帆、真剣に帰ろうとする。桜子は止められない。

佳奈、夏帆を止めようとして階段を昇る

佳奈 だ、大丈夫ですよ。だ、だって、これに五七五つけるだけですから

575

桜子 大谷さん、そんなに簡単な…

夏帆 まって

佳奈 わ、わたしも頑張ります。岬先輩も山野先輩も、が、がんばりましょう

夏帆 佳奈ちゃん…

佳奈 わたし、おふたりのこと信じてます

桜子 え？

佳奈 岬先輩に教えてもらったんです

夏帆 (ちよつと驚いて) 佳奈ちゃん

桜子 なんて

佳奈 山野先輩のこと信じることに決めたら、いつの間にか友達になってたって

桜子 夏帆

佳奈 だから、わ、わたしもおふたりのこと信じることに決めました…
(思い切って) 友達になりたいから

桜子 …

佳奈 このことは夏帆と佳奈ちゃん二人だけの秘密だったんだよ

佳奈 …す、すいません

夏帆 いいよ。

桜子 ごめん…

夏帆 後輩に教えられたね

…とにかく、その五十周年号を探そうよ。ここにあるんですよ

桜子 そうね

佳奈 わ、わかりました

5 (1966年Ⅲ)

575

美智子が駆け込んでくるが、まだ誰もきていない

美智子 大ニュース、大ニュース、大ニュースっ…って、誰もいない。

そこへ順子が入ってくる

順子 あら、みっちゃん、早いわね

美智子 順子先輩、聞きましたか

順子 落ち着いて、…恵美子の小説が「群像」の一次通ったことなら知ってるけど

美智子 えーっつ、それ私が一番最初に知ったと思ってたのにーっつ

順子 おあにくさま

美智子 でも、すごいですよね。高校生が大人の文芸誌の新人賞取っちゃうなんて

順子 まだ一次通過しただけでしょ

美智子 だってそれだけだってすごいことじゃないですか。上高文芸部、すごい！

そこへ恵美子や薫子、照子が入ってくる

美智子 恵美子先輩、おめでとございます

恵美子 ありがとうございます。まあ、まぐれだけどね

美智子 そんなことないですよ。かっこいいー。憧れちゃいますー

照子 本当にすごいですよね

薫子 たいしたものね

恵美子 ありがと。そうだ、薫子の小林秀雄論が、今年の県の芸術文化祭で最優秀
たのよ

美智子・照子 えーっつ、すごーい

薫子 「群像」とは格が違うけど…

575

美智子　すごいですよ。すごーい。先輩たちみんなすごいです。

順子　先輩は何か賞、取ったんですか

順子　なーんにも。私は皆勤賞ねらいだから

照子　すごーい！

美智子　すごいのか？それもすごいことなの

照子　みつちゃんは毎日遅刻だもの、絶対にとれない賞でしょ？

美智子　それ文学と、なんか関係あるの

順子　いいのよ、私はこの二人みたいに才能はないけど、地道に日常を生きていくことに決めてるんだから

美智子・照子　納得です！

薫子　ねえ、今日は天気もいいし、バルコニーに出てみない？

順子　いいわね、空気も入れ替えた方がいいしね

全員がバルコニーに出る

薫子　恵美ちゃん、おめでどう

恵美子　ありがとう。薫子こそ、やったわね

間

全員が、何かに思いを寄せている

薫子　ね、俳句つくりましょうよ

美智子　いいですね

照子　はい

順子　俳句か、苦手

恵美子　五七五だけじゃ私の世界はかたれないわ

薫子　いいのよ。やりましょ

美智子　では、先陣を切ってワタクシが

575

照子 標語はやめてよ

美智子

空広しなれると思う何にでも
空広しなれると思う何にでも

順子

眉上げて小さき我もいざ生きん
眉上げて小さき我もいざ生きん

照子

道遙かいつかたまでも歩もうぞ
道遙かいつかたまでも歩もうぞ

薫子

来たる日と過去とをつなぐ我らかな
来たる日と過去とをつなぐ我らかな

恵美子は皆の俳句を褒めながらその輪の中でふと気づく。
妖精の笑い声

恵美子 できたわ

薫子 え？

恵美子 「はやしゅったつは告げられている」の上の句

順子 え？

恵美子

いくわよ。
乙女らの胸凜と張り声涼し

薫子・順子・照子 はやしゅったつは告げられている

全員が顔を見合わせ歓喜の表情で

全員 乙女らの胸凜と張り声涼し はやしゅったつは告げられている

薫子 恵美ちゃん

感動した薫子が恵美子の手を握る

感極まった美智子が校歌を歌い始める。皆が追従し合唱する

歌の後、皆が笑う。その笑いの中で

薫子 …ねえ、みんなどんな夢を持つてるの？

順子 また…、いつも薫子は突然ね。そういうのはね、言い出しつぺから喋り始めるもの
なのよ

575

恵美子 そうね（笑）

薫子 私？。：私は、高等学校の教師になりたい。

恵美子 へえ、意外：どうして

薫子 わからない、今そう思ったの

順子 でも、似合ってるかも。きっと厳しい先生になるね

美智子さん、また遅刻ですよ

美智子 ごめんなさい

薫子 いつか上高に赴任して、文芸部の顧問したいな

恵美子 文学を愛する生徒ってこの先もいるのかしらね

薫子 もちろんよ。第二の恵美ちゃんを育てるわ、私。

美智子 私はお金持ちと結婚して玉の輿がいいです

薫子 まあ（笑）

美智子 背が高くてスポーツマンで、アランドロンみたいないい男：

順子 言っておくけど、相手にも選ぶ権利があるからね。照ちゃんは？

照子 そうですね。夢見るだけなら自由ですよ。私は：私は女優になりたいです。

美智子 なれるわけじゃない。女優ってのはね

薫子 みっちゃん。夢を語ってるの

どうして女優になりたいの

照子 父が昔映画の仕事してたんです。その頃の話をよく聞かされて。

：憧れです。今は映画ダメですけどいつかまたよくなる時が来るからって父がいう
ものですか。

美智子 照ちゃん、これからは特撮よ

恵美子 順子は？

順子 私は高校出たら二年働いて二十歳でお見合いして、三十までに子どもを二人生んで、
四十五までに仕上げて、旦那と二人で世界旅行に行くの

575

薫子 (笑いながら) 順子らしいわ。

恵美子 子どもの数まで決めてるのね。一姫二太郎だったりして

順子 そうね、女の子だったらかわいい服をたくさん作って着せて上げたいわ

薫子 お裁縫得意だから、きつといいお母さんになれるわね

…恵美ちゃんは？

恵美子 私？私か。自分が満足できる小説が一本仕上げられれば、それで人生に未練はないかな。

美智子 未練はない？

恵美子 とにかく、生きたという証を小説で残したいの。私は順子みたいに幸せな家庭とは縁がないと思うから。子どもの代わりに百年後も読まれるような小説を書く。

薫子 私たちの未来はもう始まっているのね。…もうすぐ私、お姉ちゃんと同い年になる。生きている者は精一杯生きなくてはいけないんだわ。

風が吹いてくる

順子 そうね。もうみんな、少しずつ違う道を歩き始めてるんだ

恵美子 そう、一人一人に「はやしゆたつは告げられている」ってわけね

風が強くなる

照子 髪が

夕日が皆の顔をオレンジに染める。髪が大きく乱れる。
妖精の笑い声

美智子 先輩私できました

順子 何ができたの？

美智子 五十年後の後輩たちへの宿題です。七七の方。

恵美子 へえ

照子 ええ？

美智子、大きく息を吸い込み

575

美智子 風に乱れる髪を見ている

間

皆が美智子を見る

薫子が美智子に近づく

薫子 …みつちゃん、もう一度言ってくれ

美智子 薫子を見つめ、笑顔で、大きな声で

美智子 風に乱れる髪を見ている！

薫子が美智子を抱きしめる

美智子 わ、先輩！

薫子 いいわ、みつちゃん。今の私たちのこの思いが、まだ見ぬ五十年後の後輩たちに届くような気がするもの

薫子は涙ぐんでいる

順子 やるわね。意外とあんたが一番文学っぽい仕事してたりして

美智子 …それは、…ない！

全員が笑いながらバルコニーから外を眺める。

薫子 私、五十年後の後輩に手紙を書くわ。それを今年の「七葉」に挟んでおく。楽しみ。どんな子がどんな風に私の手紙を読んでもくれるかしら。私たちの宿題にどんな風に答えられるかしら

順子 楽しみね

恵美子 五十年後か？日本はどうなってるのかな

美智子 ウルトラマン、やってるかな

順子 やってるわけない！

照子 みんな元気ですかね

薫子 神のみぞ知る。でも、元気でいて。みんなこのバルコニーで、また会いましょう

三人が書棚の本を見ながら探している。

桜子 一年以上ここにいるのに、どんな本があるかなんて気にしたことなかったな

夏帆 難しそうな本ばかりだねえ

佳奈 ほ、本当に妖精が出て、お、おかしくないですね

…や、山野先輩、き、聞いてもいいですか？

桜子 何？部長のこと

佳奈 そ、それと、亡くなった先輩という人のこと

夏帆 佳奈ちゃん…

桜子 いいよ

亡くなった先輩ってね、私のお姉ちゃんなの
とつても優しくて頭が良くってきれいだった。

部長はそんなお姉ちゃんに憧れていた。
でもある日、お姉ちゃんはこの世を去り、部長はそれ以来、あんなに好きだった俳
句も短歌も作らなくなった

場面が変わる。部長が一人佇む。

桜子 逃げるんですか

部長 振り向かない

桜子 部長！

部長 何も言わずに出口に向かう

ドアを開けるとまばゆい光が差し込み部長の姿が消えかかる
部長 奥を向いたまま

部長 虹消えて忽ち君の無き如し

部長 薫子をふり返り

部長 虹消えて忽ち君の無き如し

桜子 部長、そんな姿を見てお姉ちゃんが喜ぶと思うの

部長は何も言わず行こうとする

桜子 ニシキ エテステニ ナケレト アルコ トシ

…ニシキ エテステニ ナケレト アルコ トシ

森田愛子はこの句を病床から電報で虚子に送った。虹は消えてしまっても私はここにいますって伝える為に…。いえ、たとえ自分が死んでしまってもそれでも私はここにいますと伝えるために

戻ってきて下さい…：私たちには部長が必要です

五十年前、先輩たちが残してくれた宿題に、私はどう答えればいいの

部長、ゆっくり振り返る

部長 大丈夫だ、桜子。何の心配も無い。できるよ、お前なら

舞台、現実にもどる

佳奈 お、お姉さん、な、なんていう名前だったんですか

桜子 碧子っていうの。私の死んだおばあちゃんがつけたんだ。

…あのね、おばあちゃんも、上高出身なの。私にいつも上高に行きなさいって言った。名門なんだからって。おばあちゃんに通ってた頃とは違うよって何度言っても、全然聞く耳待たなかったな(笑)

夏帆 これかな…

桜子・佳奈、夏帆に近づく

夏帆、桜子に差し出す

桜子 (つぶやくように)七葉 五〇号… これだ、これだよ 夏帆、大谷さん…

開こうとすると 手紙が落ちる

桜子 …何？

夏帆 手紙みたい

佳奈 な、なんて書いてあるんですか？

桜子 封を開け便せんを取り出す

桜子 読むね

これを読んでいる未来の上高文芸部の後輩に託します。
私たちはこの五〇号を本当に苦心して苦しみながら編みました。
五〇年前、先輩に託された思いに伝えるため

声が薫子とオーバーラップしていく

薫子 友と、行方不明の部長と、そして今はなき姉の思いを胸に全部員が全力で作り上げた「七葉」です。私たちは胸を張って、これをあなたたちに届けます。

五〇年後はどんな世界ですか？文明はとも進歩しているでしょうね。でも、どんなに時間が経っても変わらないものが有ることを私たちは知っているし、それを信じます。それは文学を愛する気持ち。言葉を信じる気持ちです。

もし、あなたたちが私たちのように苦しんでいるなら、あなたの隣にいる友を信じて。そして力をあわせて、言葉を紡いで下さい。

だって私たちは、本の妖精に守られた幸せな文学の徒なのですから。最後にこの言葉を贈ります。

声がまた桜子一人に戻ってくる

桜子 上高文芸部よ、胸を張れ。我らは本の精に守護されたり

昭和四十一年度 文芸部副部長 ……

夏帆・佳奈 ……？

夏帆 どうしたの桜子ちゃん

桜子、泣きながら

桜子 これ書いたの私のおばあちゃんだ…

夏帆・佳奈 えっ！

妖精の声

間

桜子 いまわかった。もう何十年も前から、ううん、きっと何百年もまえからずっと…

佳奈 ……わ、私も感じます。何世紀にもわたる多くの人々の熱いまなざしを…

夏帆 ホントだ、…ホントだ ホントだ

3人、ペランダに歩み寄る

夏帆 月がきれいだね

佳奈 出てみませんか、ペランダ

575

桜子 そうね、私たち、毎日ここでやってるのにベランダに出ることなんて滅多にないもんね

3人が窓を開け、ベランダに出ると、さわやかな風が吹く

夏帆 ね、桜子の最近のお気に入り、もう一度教えて

桜子 ……霜柱青春の骰子七も出でよ

佳奈 ど、どういう意味なんですか

桜子 つらくて苦しくて、諦めたくなったとき

でも負けないぞって、霜柱サクサク踏みつけながら

夏帆・佳奈 ……

桜子 青春を生きる私の骰子さいころは、七の目を出す奇跡を起こす

夏帆 誰の句？

桜子 わからない。おばあちゃんが私が小さい時に教えてくれたの。最近思い出した

一陣の風が3人の髪を吹き抜ける

佳奈 あ…

桜子 ……

夏帆 気持ちいい風

佳奈 桜子先輩

桜子 ……初めてね桜子先輩って言ってくれたの。いつも山野先輩だったのに…

佳奈 ことです。この風

桜子 え？

夏帆 ああ！

風に乱れる髪を見ている

書庫の中が金色に輝き始め 光の粒がわき上ってくる

佳奈 そう！

575

夏帆 今この瞬間を詠んで、桜子。早くしないと消えちゃう

桜子 そうか！

間

夏帆は空を見、佳奈は桜子と夏帆を見ている

桜子一人考えるように前を向いていたがやがて二人を見つめる。気づいた二人はワ

クワク感にふるえる。

妖精の笑い声

桜子 できたよ…

時かける少女たちのまなざしは

夏帆・佳奈 風に乱れる髪を見ている…

夏帆と佳奈、顔を見合わせて微笑む、そして元気よく声を合わせて

全員 時かける少女たちのまなざしは 風に乱れる髪を見ている！

書庫の中はまばゆい輝きをまましていく

部長が扉を開け入ってくる

妖精の笑い声

了

平成二十八年八月二十三日	(火)	初稿
平成二十八年八月二十七日	(土)	第二稿
平成二十八年八月二十九日	(月)	第三稿
平成二十八年九月九日	(金)	第四稿
平成二十八年十月二十八日	(土)	第五稿
平成二十八年十一月六日	(日)	第六稿
平成二十八年十二月二日	(金)	第七稿
平成二十八年十二月八日	(木)	第八稿

作中句・歌

575

注1 虹消えて忽ち君の無き如し

高浜虚子（一八七四〔明治7〕年～一九五九〔昭和34〕年）俳人

注2 ニシニキエテステニナケレトアルコトシ

森田愛子（一九一七〔大正6〕年～一九四七〔昭和22〕年）俳人

注3 霜柱青春の骰子七も出でよ

川口重美（一九二三〔大正12〕年～一九四九〔昭和24〕年）俳人

注4 〔断絶を知りてしまいわたくしにも〕はやしゆったつは告げられている

岸上大作（一九三九〔昭和14〕年～一九六〇〔昭和35〕年）歌人

注5 〔海のこと言いてあがりし屋上に〕風に乱れる髪をみている

岸上大作〔前出〕

右以外はオリジナル〔作 水樹朱華〕

上野澤高等学校 校歌

作詞 砂澤雄一

作曲 萩原恵里子

つど 集え 集え 若人よ

真理の旗の許に

我ら 眼をあげて

頂を見ん

たとえ嵐が迫り来ようとも

こぞ 挙げ 挙げ 気高く

清き友と腕組み

ああ 我ら 上野澤高校